

国際交流基金助成事業報告書

大阪薬科大学薬学部薬学科 4年次生 山崎 隆未

今回、私は国際交流基金助成を受けて、カナダ・バンクーバー州で行われた短期海外医療研修プログラムへと参加しました。

プログラム日程

時間	13:00-15:00	15:00-17:00	18:30-20:30
1日目 (8/19)	メインランドクリニック見学	コーストメディカルクリニック見学	医療通訳入門プログラム
2日目 (8/20)	私立病院見学	総合病院見学	医療通訳入門プログラム
3日目 (8/21)	専門医見学	大学病院見学	医療通訳入門プログラム
4日目 (8/22)	薬局見学	医療システムガイダンス	医療通訳入門プログラム

このプログラムでは、日中はバンクーバーで医療通訳サービスを展開している Trans Med の日本人通訳スタッフが市内の各医療機関を案内や説明を行い、その後 Trans Med のスタッフが日常の業務で使われている医療単語を中心に医療通訳講座行いました。

・ 1日目

メインランドクリニックにて医療通訳者体験を行いました。カナダは日本同様国民皆保険であり、医療費はすべて保険によって賄われます。一方、留学生などの外国人はほとんどの場合自分の出身地で保険会社に申し込み保険会社を通して医療費が支払われます。

日本人などの外国人はカナダ人に比べて診療報酬が高いためクリニックなどでは優先して診察を受けられることが多くあり、メインランドクリニックとその後訪問したコーストメディカルクリニックでは Trans Med のスタッフが常駐し、日本人留学生やワーキングホリデイの参加者が安心して受診できる環境を提供していました。

医療通訳者は保険の確認、カルテの準備などを行った後に患者とともに診察室に入って医師の診断を聞き、その訳を患者に伝えます。その後再び資料を作

成、整理をするという仕事でしたが、書類も英語で書かれている場合が多く、癖のある字で書かれた医師のカルテを読み書類を分類することもあるため今まで主に学習した高校英語の知識だけではとても仕事にはならないと感じました。



←メインランドクリニック院長ブライアン医師と

・ 2 日 目

2日目からは Trans Med の日本人の通訳スタッフである Nae Watajima さんに市内の各病院や施設を案内して頂きました。最初に FALSE CREEK SURGICAL CENTRE という外科の開業クリニックを見学しました。レントゲン室やCTの装置などは一般的な日本のクリニックとほとんど同じでしたが、清潔感やスタッフの対応などはとても良く、公立病院とは違いすべて自費診療となるので主に高所得である患者がよく来院しているとのことでした。

次に VANCOUVER GENERAL HOSPITAL に行きました。ここは公立の総合病院で、ブリティッシュ・コロンビア州立大学の付属病院でもあります。この病院は脊髄に関する治療が特に有名で、右下の写真のように脊髄の研究、治験などの情報が掲示板に貼られていました。



↑ FALSE CREEK SURGICAL CENTRE の外観



↑ UBC (ブリティッシュ・コロンビア大学) の敷地内にて ↑ VANCOUVER GENERAL HOSPITAL の玄関

・ 3 日目

この日はダウンタウンにある眼科の医院へ行きました。この医院もプライベートクリニックですが、ブリティッシュ・コロンビア州ではレーシック手術は保険でカバーされないのが医師の腕前や施設のサービスによってクリニックの人気の左右される様です。このクリニックの院長は年間 500 症例ほどこなしかナダ国内でも有名な眼科医だそうです。



↑ レーシックによる近視矯正手術の説明を受けている様子

その後 PHARMASAVE というカナダでは有名なチェーン店の調剤薬局を訪問しました。

この薬局では pharmacist の Nelson さんと technician の Lee さんが勤務しており、ネルソンさんはこの薬局の経営者でこの店舗の他に 3 店舗薬局を運営されているそうです。

カナダの薬局で 1 番驚いたことは通常日本では処方せんに疑わしい内容がある場合行わなければならない疑義照会を必要とせず、自らの判断で処方せんを書き直すことができ、その書き直した処方せんのファックスを処方医に送信すれば処方の変更が可能であるという点でした。また、処方薬があるカウンター内では Nelson さんの飼い犬が 2 匹放し飼いにされており日本の薬局よりも砕けているように感じました。また、錠剤は基本的に日本のように PTP 包装のシート錠ではなくプラスチック製の小さな小瓶に詰められており、患者は薬剤師の説明を受けて服用するとのことでした。

日本では、薬の飲み間違いや包装ごと飲み込むなどの医療事故を防ぐために様々な工夫を凝らしていますが、カナダの薬局でもそのような工夫はされていか尋ねたところ、高齢者の方にはこちらからそのような気遣いを行い、患者が希望されれば下に貼ってある写真の台紙をもらえるとのことでした。

また、どこの国でも医療事故は起こることであり、それをいかに防ぐのかを考えることも医療者の使命だ。と言われたがとても印象に残りました。



← : Nelson さん、Nae さんと

・ 4 日目

最後の訪問先は St. Paul`s Hospital という総合病院でした。カナダでは、受診する際、まずホームドクターと呼ばれるかかりつけ医、もしくはメインランドクリニックやコーストメディカルクリニックのようなウォークインクリニックと呼ばれるクリニックの総合医の診察にかかります。どちらも専門性は低いですが、全身を診察できるドクターがおり、そのドクターの判断によって、より専門的な治療が必要とされた場合には総合病院の各診療科にかかることができます。

この病院では、性感染症の分野が有名であり、特に HIV の分野に特化しているようですが、病院の総合案内にはそのような表記はなく、訪れてみると他科とは少し雰囲気違ったように思いました。

医療システムガイダンスでは、Nae さんに日本とカナダの生活の違いや医療制度の違いなどをより詳しく教えていただきました。

また、メインランドクリニックのバックヤードにあった医薬品のサンプルを見せてもらおうと、そのほとんどが外資系の製薬会社でしたが、その中に日本の製薬会社の医薬品サンプルも入っており日本人として海外で日本の製品を目の当たりにするととても誇らしかったです。



←St. Paul`s Hospital の廊下にて



左側の Care Card はカナダの国民健康保険証で 10 桁の番号が国民全員に付与されています。医療従事者はこの番号を使って医療者専用のサイトにアクセス

することで、その患者がいつ、どこで受診し、どの薬局でどのような薬をもらったのかという医療情報を閲覧することができます。

右側はアナフィラキシー発症時に使用するアドレナリンの自己注射剤です。医薬品サンプルとして保管されていました。

・医療研修旅行を終えた感想

私は、以前から漠然とではありましたが将来はどのような進路に進んでも海外で働いてみたいという夢がありました。しかし、これまで海外に行った経験はなく、自分でもどの程度その夢を実現させたいのかわかりませんでした。

今回は1週間という非常に限られた期間しかなく、今回のことだけで海外での生活がすべてわかった訳ではありませんが、より海外で働いてみたいという思いが強くなりました。

医療に携わりながら海外で活躍するためには医学、薬学の知識はもちろん英語も一般の外国人の方よりも専門単語などを知らなければ仕事はできません。そのためには今よりさらに勉強しなければいけないということを今回の研修旅行で痛感させられました。

将来どのような職に就くかはまだ分かりませんが、このように英語を含め、自分の夢を実現させ働くためには勉強がとても大切だということを卒業まであと2年を残した4年次で知ることができて本当に良かったです。この経験を活かして残りの学生生活を有意義なものにしていきたいです。